# 一般国道169号　伯母峯峠道路
## ～コスト増加について～

令和8年1月

国土交通省

# - 目 次 -

1. 事業概要 P1
2. コスト増加の要因 P2
3. コスト縮減の取り組み P7

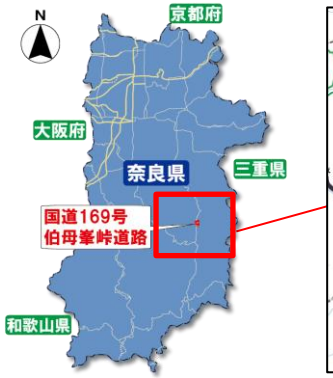
# 1. 事業概要

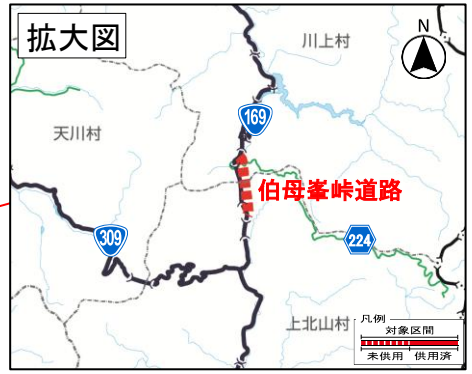
## 1．1　一般国道169号 伯母峯峠道路　事業概要

### 一般国道１６９号 伯母峯峠道路

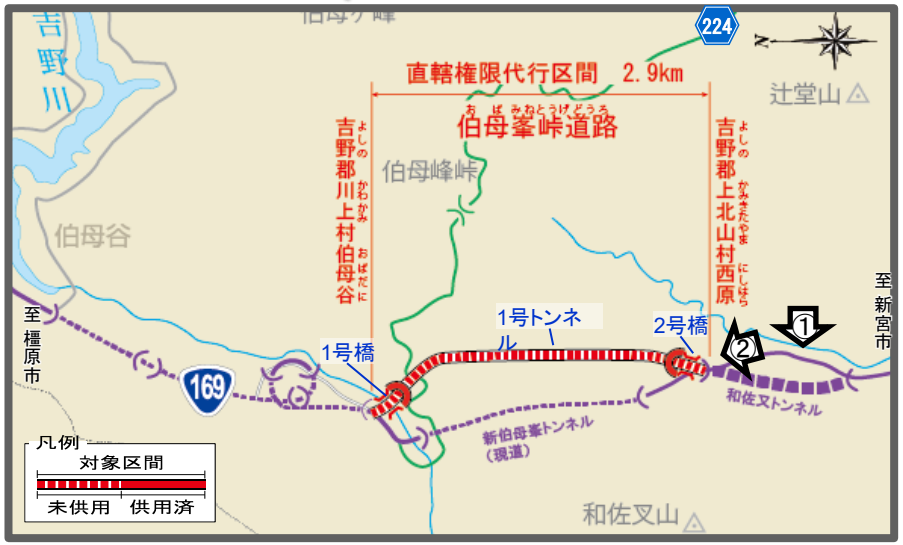
○ 一般国道169号伯母峯峠道路は、災害に強い道路の確保、救急医療活動の支援、地域経済・観光の発展を目的とした高規格道路。地形条件が厳しく整備に高度な技術を要する区間であることから国土交通省権限代行事業として事業中。

○ 今年度は、伯母谷～西原地区間の環境調査及び改良工事を推進するとともにトンネル工事に着手。




| | |
|---|---|
| 区間 | （起）奈良県吉野郡川上村伯母谷<br>（終）奈良県吉野郡上北山村西原 |
| 事業化 | 平成28年度 |
| 用地着手 | 平成30年度 |
| 工事着手 | 平成30年度 |
| 事業進捗率 | 約20%（令和7年3月現在） |
| 用地取得率 | 100%（面積ベース、同上） |




出典）奈良国道事務所　事業概要

# 2. コスト増加の要因

## 2．1　一般国道169号 伯母峯峠道路　事業概要　コスト増加要因

■前回事業費増時135億円であった総事業費は、下記の要因により220億円に増加しています。

**総事業費135億円（平成31年度）→220億円（令和7年度）　＜85億円（約63%）増＞**

（億円）

| | | 伯母峯峠道路 | 主な増額理由 |
|---|---|---|---|
| ① | 当初 | 125 | |
| ② | H31年度<br>（ー） | 135<br>[+10] | ・岩盤クリープを避けたトンネル線形の見直しに伴う費用の増加（+7）<br>・下部工規模の増大に伴う費用の増（+3） |
| ③ | R7年度予定<br>（ー） | 220<br>[+85] | |

増額内訳

+85億円

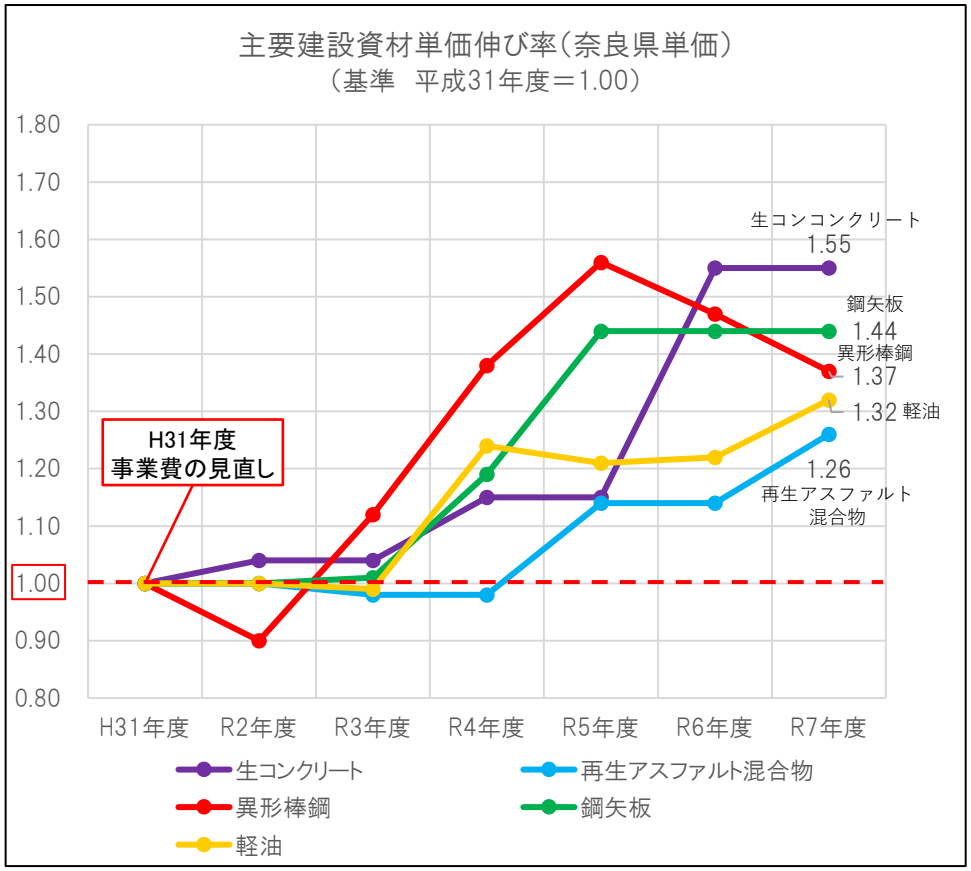
| | |
|---|---|
| 資機材費増 | ＋42.5億円 |
| 労務費増 | ＋12.2億円 |
| 現道接続部の構造見直しによる増 | ＋19.3億円 |
| 重要物流道路の指定に伴うトンネル費用の増 | ＋ 6.9億円 |
| 切羽面の肌落ち対策の追加による増 | ＋ 4.5億円 |
| コスト縮減 | ー 0.3億円 |

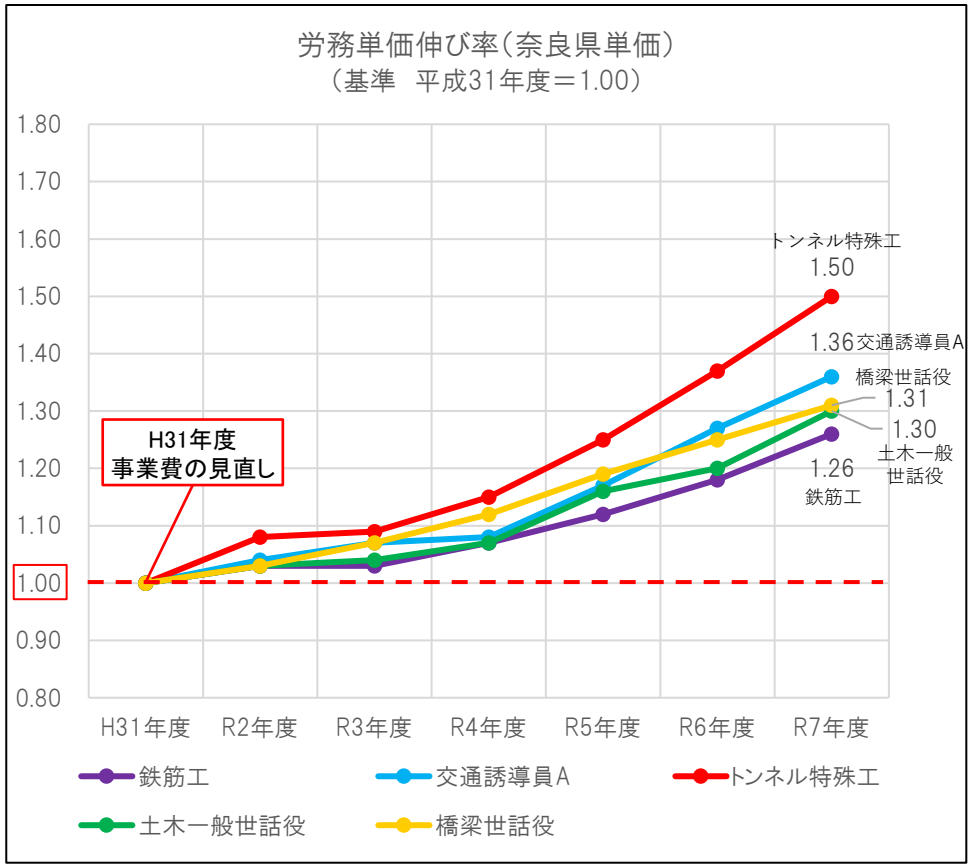
# 2. コスト増加の要因

## ２．２ （1)物価上昇による資機材費及び労務費単価の増・・・・・・・・・・54.7億円

■前回事業費増額（平成31年度）後、現在（令和7年度）に至るまでの資機材単価および労務単価の上昇により、増額の必要が生じました。

主要建設資材単価と労務単価の上昇率




【出典】
建設資材：建設物価（建設物価調査会）奈良県単価
労務単価：公共工事設計労務単価について（国土交通省）

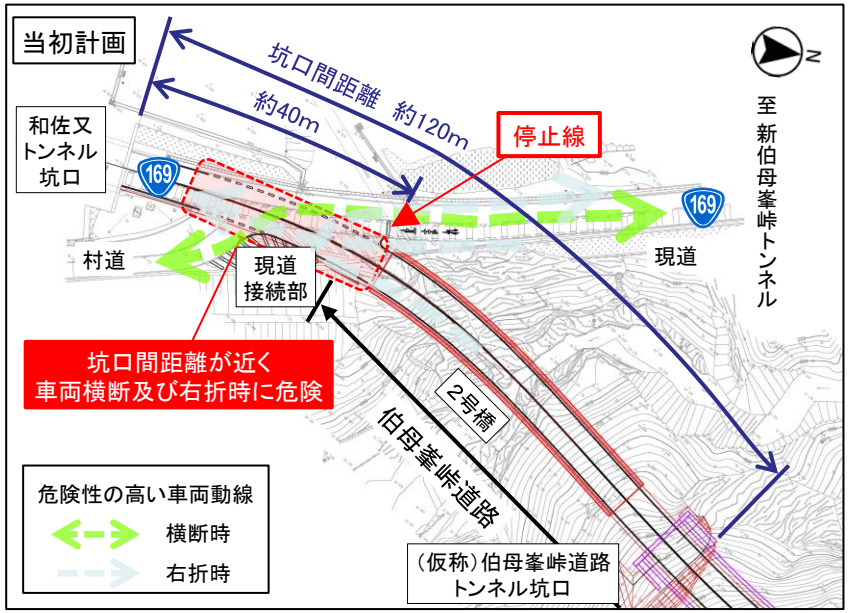
# 2. コスト増加の要因

## 2．2 (2)現道接続部の構造見直しによる増・・・・・・・・・・19.3億円

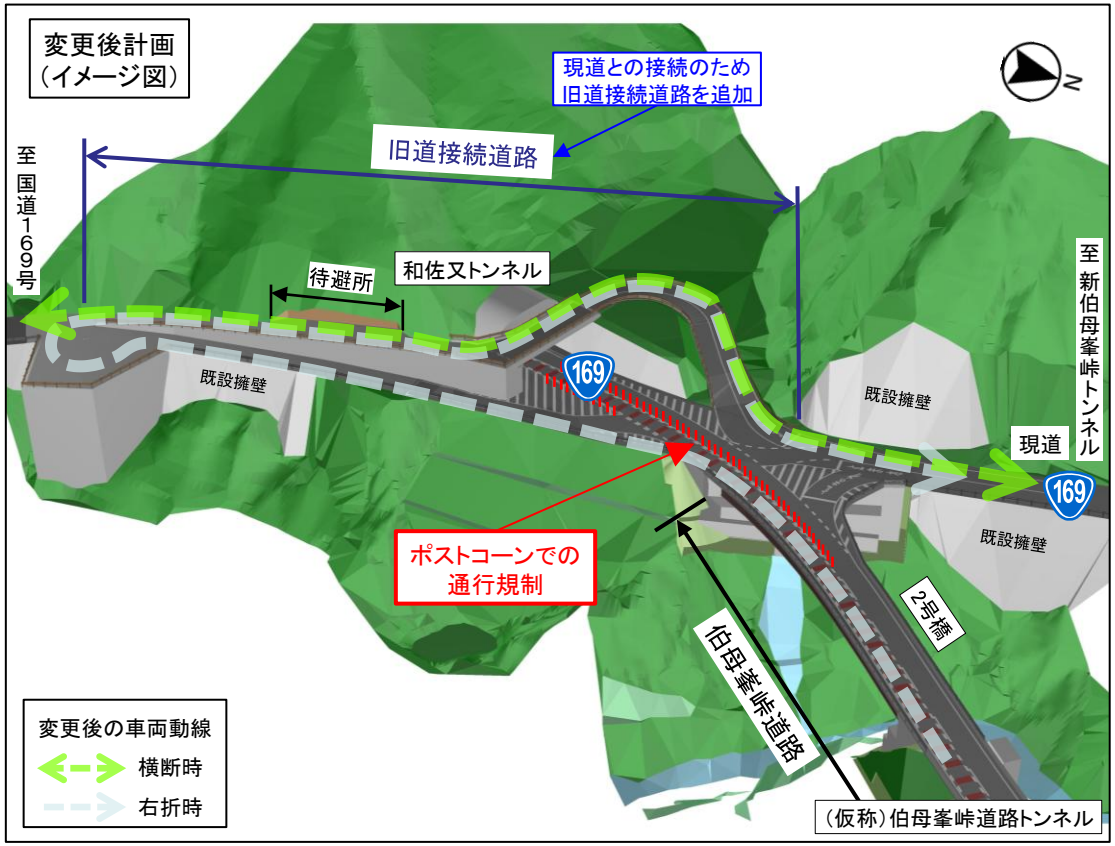
■当初、終点側現道接続部の交差点計画において、現道からの流入交通は停止線による「一旦停止」での運用を計画していました。

■関係機関協議の結果、(仮称)伯母峯峠道路トンネルと和佐又トンネルの坑口間距離が短いため、坑口間区間での車両横断及び右折に対し通行規制をかけ、和佐又トンネル上を越える跨道橋を用いた構造変更を行ったことにより、増額の必要が生じました。

●当初




●変更後

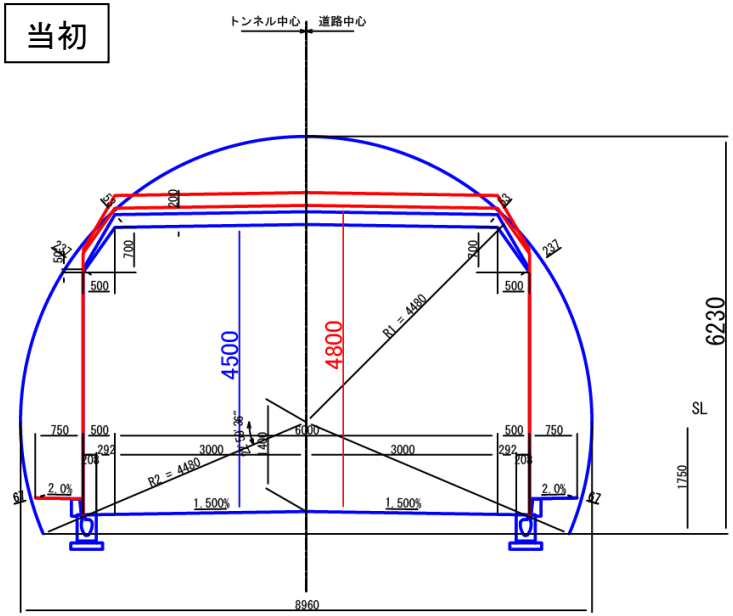


# 2. コスト増加の要因

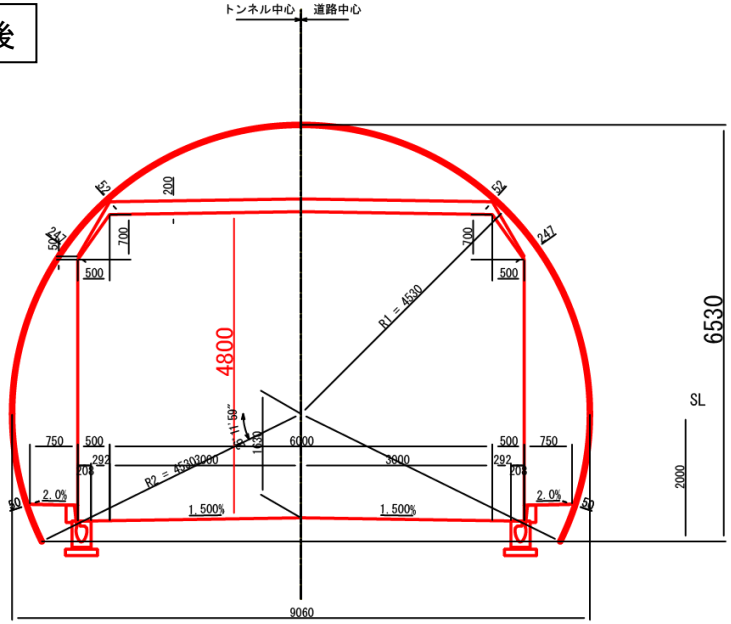
## ２．２ (3)重要物流道路の指定に伴うトンネル費用の増・・・・・・・・・・6.9億円

■令和4年4月1日付けで国道169号が重要物流道路として指定されました。
■指定されたことを踏まえ建築限界を4.5mから4.8mへ変更する必要が生じました。
■それに伴い、トンネル断面積及び建設発生土運搬量が増加しました。

当初




変更後

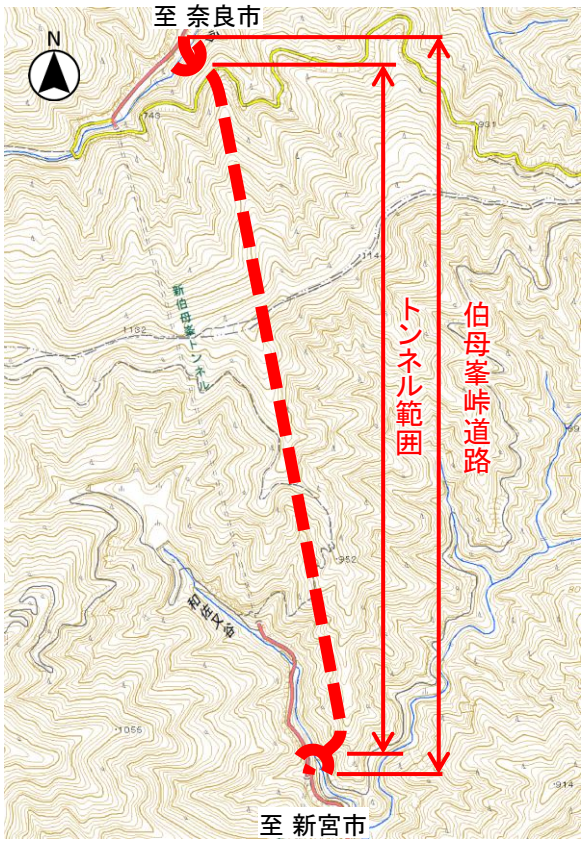



建築限界(青):重要物流道路 考慮なし
建築限界(赤):重要物流道路 考慮あり

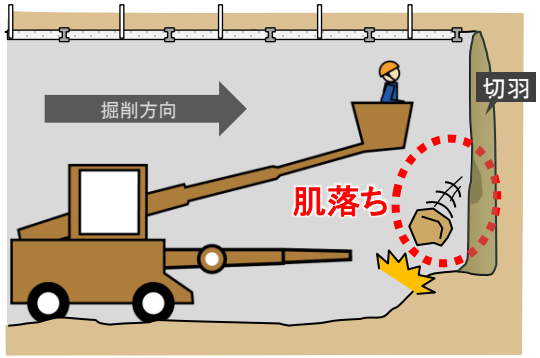
# 2. コスト増加の要因

## 2．2 (4)切羽面の肌落ち対策の追加による増・・・・・・・・・・4.5億円

■詳細設計段階では、トンネル工事における切羽面の肌落ち対策は考慮していませんでした。
■ガイドライン改正を踏まえたトンネル修正設計の結果、切羽面の肌落ち対策として鏡吹付工を追加したことにより、増額の必要が生じました。

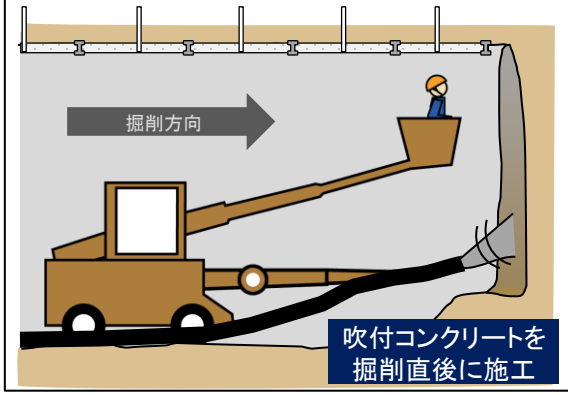



肌落ちとは、トンネルを掘り進める工事を行っているとき、掘削面（切羽）から岩石が落下すること。



出典：山岳トンネル工事の切羽における肌落ち災害防止対策に係るガイドラインの解説（平成30年1月改正版）

■対策（鏡吹付工）イメージ



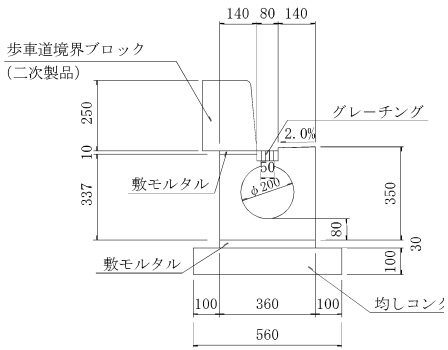

【鏡吹付工】

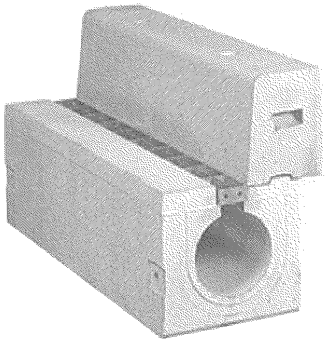
# 3. コスト縮減の取り組み

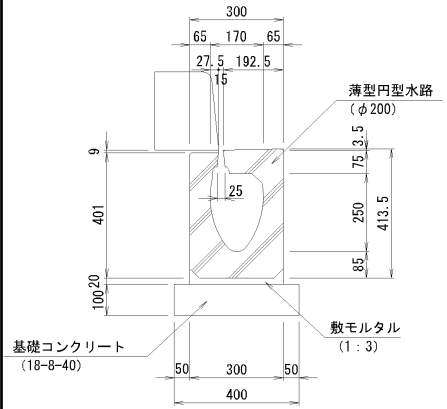
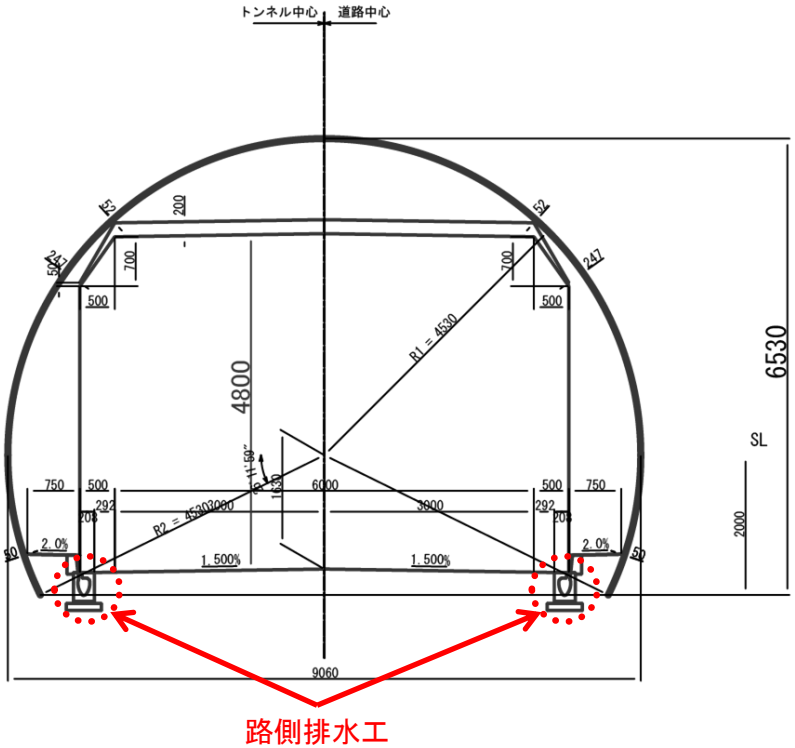
## 3．1　路側排水工の変更によるコスト縮減・・・・・・・・・・－0.3億円

■1号トンネルの路側排水工を近畿地整標準の円型水路から薄型円形水路に変更することにより、内空断面縮小でコスト縮減を図っています。

○当初計画：円型水路（近畿地整標準タイプ※）



※設計便覧（案）（近畿地方整備局）より、『路側排水工は、二次製品の円型水路（φ200 グレーチング付 T－25 対応）を標準とし、維持管理性、耐久性、経済性等を踏まえ比較選定する』となっている。

○変更後計画：薄型円形水路